

3 高病原性鳥インフルエンザの発生を想定した 大規模採卵鶏農場での効率的な防疫作業方法の検討

中丹家畜保健衛生所

宮城信司 田中優子 大谷健太 岩間仁志

【はじめに】府は、これまで直立多段ケージでの防疫作業動線や捕鳥台の高さなどを検証している。今回は中丹管内において主な鶏舎構造（10農場中5農場）である直立多段ケージをグレーチングで仕切った鶏舎2階部分での殺処分鶏の搬出方法を中心に検証した。【方法】農場の2階部分の廃鶏200羽を用い防疫作業を実施し、未検証である2階からの殺処分鶏搬出についてフォークリフトで降ろす方法（フォークリフト法）とボイド管の中を落下させる方法（ボイド管法）を比較した。【結果】フォークリフト法の殺処分鶏搬出羽数は最大15羽/分で作業危険度は高く、ボイド管法が作業効率及び安全面で有効であった。しかし、ボイド管法は、詰替作業以上の鶏を搬出できた事による作業の停滞と羽毛の飛散を認めた。この課題は、フレコンキャリアを利用し、別に設けた詰替作業場へ移動することで作業効率の向上と羽毛飛散防止が図られると考えられた。【試算】この方法により、ボイド管法の搬出羽数は95羽/分とすると、今回実施した鶏舎2階部分の1万6千羽の鶏を取り出し、2階からの搬出までは、作業員74名で2.9時間と試算された。【まとめ】今後、実地訓練を継続し課題点の抽出・改善を重ねることで、迅速・円滑・安全な防疫作業マニュアルの構築をすすめる。